
全国発信記事 ▲▽▲▽ 三崎支部 — 住吉漁業株式会社 —

22 年ぶりの新造船「第三住吉丸」が三崎港から出港！

関東地方の梅雨入りも近い 6 月 11 日（土）、三浦市三崎を拠点とする住吉漁業株式会社の遠洋マグロはえ縄漁船の新造船「第三住吉丸（459 トン）」が、三崎漁港の本社前の花暮岸壁から出港した。出港当日は曇天のため、初夏の日差しも少なく、涼しい風が吹く中での出港となったが、小泉進次郎衆議院議員と吉田英男三浦市長が、新造船のお祝いと乗組員への激励に駆けつけた。

住吉漁業株式会社の遠洋マグロはえ縄漁船の新造船は 22 年ぶりで、乗組員の高齢化や漁師の担い手が不足し、漁師の確保・育成が喫緊の課題となっている昨今、会社は若い乗組員の育成にも力を入れており、22 年度は水産系学校の卒業生 4 人を採用した

▽三崎の漁業・海業を盛り上げてほしい

普段は釣り人でにぎわう三崎漁港の花暮岸壁だが、出港準備に忙しい第三住吉丸の目の前は、出港時間の 1 時間前には、見送りに訪れた多くの乗組員の家族や関係者でにぎわった。

出港 15 分前には、お祝いと激励に駆けつけた吉田英男三浦市長と小泉進次郎衆議院議員からあいさつが述べられ、吉田市長は「久しぶりの新造船の初出航、無事にこの三崎に戻ってきて水揚げし、この遠洋マグロ漁船基地の三崎をますます盛り上げてほしい」と大漁と航海の無事を祈った。

▽小泉進次郎衆議院議員と吉田英男三浦市長が激励に駆けつけた

小泉衆議院議員は「漁業は海業とも呼ばれ、海に囲まれた日本にとって、漁業・海業は国を支える重要な産業。今日の出港には、この遠洋マグロ漁船の漁師になりたいという子どもの頃からの夢をかなえた、今年 20 歳の若者が乗船した。彼の船出を祝って、皆さんに紹介したい」として、遠洋マグロはえ縄漁船に初めて乗り組む小林航さんを紹介し、激励した。

その後、第三住吉丸の乗組員が吉田市長と小泉衆議院議員を囲んで記念撮影が行われ、出港する時間となり、乗組員全員が出港スタンバイし、本船が岸壁を離れ、見送りの家族が本船の安全航海と大漁を願い、大きく手を振った。

岸壁を離れ回頭する本船のブリッジからは、杉山順二漁労長が「皆さんの見送り、ありがとうございます。頑張ってマグロをたくさん取って、無事に帰ってきます」とマイクであいさつし、汽笛を鳴らしながら、大西洋の漁場に向かった。

「海員だより」

－広報室より－ <各船の海員だよりメール版の送信状態を確認します>

洋上で安全運航・安全操業の努めている組合員の皆さま、お疲れ様です。海員だよりメール版を受信していただき、ありがとうございます。

海員だよりメール版は、海員組合本部の広報室メールアドレス（kaiin@jsu.or.jp）から送信しています。

正常に届いていることを確認するために、各船へお届けしたメール便りに返信していただく作業をお願いしています。

お手数ですが、毎月 1 度、受信メールに返信をお願いします。

※毎月、1 日から月末までの間に 1 度、送信されました海員だよりに「返信」していただければ、船舶のメールアドレスの変更の有無などを確認できますので、よろしくお願いいたします。